

事例No.	3330
公表年度	R6
団体の属性	一般市
団体名	石川県小松市

事例区分	地域活性化
------	-------

タグ	<ul style="list-style-type: none">・観光・地域運営組織
----	---

事例種類	DMO
------	-----

事例内容・タイトル

ヘルスツーリズムによる観光誘客

出典

地方自治研究機構 先進事例調査研究（令和6年度）

ヘルスツーリズムによる観光誘客

取組のあらまし

取組団体 石川県小松市（一般社団法人こまつ観光物産ネットワーク）

取組内容 地域DMO「（一社）こまつ観光物産ネットワーク」と会員事業所が連携し、企業向けヘルスツーリズムプログラムを観光コンテンツとして造成した観光誘客の取組

1 石川県小松市の概要

人口	106,104人	令和6年1月1日現在（住民基本台帳人口）
職員数	38人	令和6年7月1日現在（一般社団法人こまつ観光物産ネットワーク）
総面積	371.05 km ²	令和6年1月1日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 1 石川県小松市の位置図



出所：小松市ホームページ
(<https://www.city.komatsu.lg.jp/shiseijoho/abot/6748.html>)

2 取組の背景・目的

(1) 北陸新幹線の開業と商圈の変化に伴う観光誘客の課題

令和6年（2024年）3月の北陸新幹線の金沢駅～敦賀駅間の開通により、小松市内にある小松駅にも、東京から直通する新幹線が停車することになった一方で、これまで主力としてきた関西地方・東海地方の観光客の主たる移動手段である、大阪・名古屋からの直通の特急列車が廃止され、小松市を訪れる観光客の減少が危惧されていた。

新幹線の開通により、首都圏からの集客も期待されていた一方で、小松市の観光資源で、特に強みとなっていた「温泉」、「和食」、「ゴルフ場」を有するエリアは、東京から小松までの3時間圏内で複数あることから、小松市への誘客に当たって、新たな強みを生み出すべく、検討がなされることになった。

(2) ヘルスツーリズムの注目とコンテンツ開発に向けた取組

（一社）こまつ観光物産ネットワークは、地域DMOとして小松市内の地域経済の活性化や文化振興を目的として活動しており、地域産品や地域観光資源の磨き上げや観光誘客のためのコンテンツの造成等の活動を通じて地域の魅力向上に貢献してきた。

平成28年（2016年）から、（一社）こまつ観光物産ネットワークと同社の会員企業等（以下「こまつ観光物産ネットワーク等」という。）が連携しながら、小松市の観光資源である粟津温泉に代表される「温泉」、料亭など質の高い「和食」の提供、市内に複数ある「ゴルフ場」という特徴的な観光資源を生かし、ゴルフ体験やウォーキング体験等をヘルスツーリズム¹プログラムとして、一つのパッケージにし、健康経営を推進する企業等向けに提供する取組を開始した。

3 取組内容

(1) ヘルスツーリズムプログラム

こまつ観光物産ネットワーク等では、小松市内にある水郷公園等の地域資源や地域の名店・ゴルフ場等の地域事業者を結びつけることで魅力的なプログラムにまとめた。そのうち、「楽しく歩ける“生涯スポーツゴルフ”と“心と体の食”再発見の旅」及び「木場潟周回歩行を活動量計で計測、『楽しく体得する真の健康ウォーキング』」は、特定非営利活動法人日本ヘルスツーリズム振興機構が事務局代表を務めるヘルスツーリズム認証委員会によるヘルスツーリズム認証プログラムとして認証されている。

¹ ヘルスツーリズム：日本ヘルスツーリズム振興機構は、「健康・未病・病気の方、また老人・成人から子供まですべての人々に対し、科学的根拠に基づく健康増進を理念に、旅をきっかけに健康増進・維持・回復・疾病予防に寄与する」と定義している。

こまつ観光物産ネットワークでは、これらの取組をモデルプランとしながら、健康経営推進企業等のニーズに合わせてプランをカスタマイズして提供している。

ア 楽しく歩ける”生涯スポーツゴルフ”と”心と体の食”再発見の旅

同プログラムは、小松市内のゴルフ場「小松カントリークラブ」で開催されるゴルフとヘルスケアの関係を体験するプログラムである。小松カントリークラブを運営する北国リゾート開発株式会社、北陸体力科学研究所、和饗 伸の三者連携の下で実施している。ヘルスツーリズム認証プログラムにおけるゴルフのプログラムとしては全国初である。

プログラムは1泊2日で実施される。1日目は、活動量計を身に着けながら参加者は18ホールラウンドのゴルフを通常通りに楽しむ。また、1日目の夕食時にはグルメナイト「地・旬の食材会席」を開催し、疲れを癒す食事についても体験学習の場を提供している。

そして、2日目には健康運動指導士から前日の測量計のデータに基づいた提案指導を受けた上で9ホールラウンドに臨むことでゴルフと健康ケアの関係を体験するものである。

図表 2 当日の様子

[左上：参加者のラウンドプレーの様子 右上：オリエンテーションの様子
左下：グルメナイトで提供される料理の一例 右下：健康指導士による指導の様子]



出所：こまつ観光物産ネットワーク

（2）観光誘客に向けた創意工夫の取組

こまつ観光物産ネットワーク等が取組むヘルスツーリズムによる観光誘客の特徴は、健康保険組合との関係性を強め、企業等がプログラムに参加しやすい仕組みを作り上げている点である。

その一例として、プログラムの参加費用について、健康保険組合の保健事業の一つとして体験費用を健康保険組合が負担、参加のための宿泊費は企業が福利厚生の一環として負担する仕組みを提案するなど、従業員の健康増進を図れるだけでなく、福利厚生の一つのメニューとして用意できるような形式を用意することで、企業単位での参加に向けた動機付け要因になっている。

4 成果・課題

（1）取組の成果

ヘルスツーリズムによる観光誘客という点では、外国人や個人の属性に合わせた試みは一般的になりつつある。一方で、本取組は健康保険組合との関係を強めながら対個人ではなく、対企業向けとして、一般的なヘルスツーリズムと差別化しながら観光誘客に成功している点で先進的である。現在は、テレワークの普及などから健康志向の高まり、身体のみならず精神的な健康を求める企業が増加し、健康経営優良企業や推進企業へのアプローチを進めている。

また、認定プログラムの「木場潟周回歩行を活動量計で計測、『楽しく体得する真の健康ウォーキング』」は、粟津温泉にある旅館の女将が元競歩のオリンピック選手であることを生かし、ウォーキングと温泉療法を組み合わせた「リラクセーション」プログラムであるなど、地域資源を十分に活用したヘルスツーリズムとなっている点も特徴的である。

さらに、地域DMOが事業運営に携わり、地域事業者と連携してヘルスツーリズムのコンテンツを造成している点も、官民一体となった産業観光の試みを体現するものであり、地域DMOの事業運営のあり方として示唆に富むものである。

（2）今後の課題と展望

プログラムの開発や実施体制については、開発に関わった人材が外部人材であること、また、誘客への対応は、本事業の立ち上げに携わった職員が中心になっていることもあり、事業の継続的かつ安定的な実施に向けた人材育成が課題となっている。

また、将来的には小松市のみならず広域での受入体制を整えられるよう、新たな団体の設立などを構想している。

関連・参考資料

観光庁「観光地域づくり法人形成・確立計画（一社）こまつ観光物産ネットワーク（令和6年7月31日）」

<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001761544.pdf>

（一社）こまつ観光物産ネットワークホームページ「こまつレジリエーション」

<https://komatsu-ht.com/>

ヘルスツーリズム認証委員会「認証プログラム：楽しく歩ける”生涯スポーツゴルフ”と”心と体の食”再発見の旅」

https://htq.npo-healthtourism.or.jp/member/hokuriku_koshinetsu/2172031401.html

ヘルスツーリズム認証委員会「認証プログラム：木場潟周回歩行を活動量計で計測、「楽しく体得する真の健康ウォーキング」」

https://htq.npo-healthtourism.or.jp/member/hokuriku_koshinetsu/2172031301.html

NPO 法人日本ヘルスツーリズム振興機構「ヘルスツーリズムとは」

<https://www.npo-healthtourism.or.jp/about/>